挂甲の武人 国宝指定50周年記念

Press Release

特別展

はにわ

すごいぞ、ハニワ！

HANIWA!

国宝 埴輪 挂甲の武人（部分） 群馬県太田市飯塚町出土 古墳時代・6世紀 東京国立博物館蔵

Special Exhibition Celebrating the 50th Anniversary of the Designation of the *Warrior in* Keikō *Armor* as a National Treasure

Haniwa: Tomb Sculptures of Japan

HANIWA!

2024.10.16（水）—12.8（日）

TNM 東京国立博物館 平成館［上野公園］
TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

開催概要

埴輪（はにわ）とは、王の墓である古墳に立て並べられた素焼きの造形です。その始まりは、今から1750年ほど前にさかのぼります。古墳時代の350年間、時代や地域ごとに個性豊かな埴輪が作られ、王をとりまく人々や当時の生活の様子を今に伝えています。

なかでも、国宝「埴輪　挂甲の武人」は最高傑作といえる作品です。この埴輪が国宝に指定されてから50周年を迎えることを記念し、全国各地から約120件の選りすぐりの至宝が空前の規模で集結します。素朴で“ユルい”人物や愛らしい動物から、精巧な武具や家に至るまで、埴輪の魅力が満載の展覧会です。東京国立博物館では約半世紀ぶりに開催される埴輪展にどうぞご期待ください。

見どころ

挂甲の武人

史上初！「埴輪　挂甲（けいこう）の武人（ぶじん）」5体勢揃い！

国宝「埴輪　挂甲の武人」（東京国立博物館蔵）は、
その勇壮な姿や気高い表情で埴輪の造形美の極致とされ、
郵便切手などのモチーフにもなりました。
この埴輪には同一工房で製作されたと考えられる
4体の兄弟のようなよく似た埴輪があり、
国内外の博物館・美術館に別々に所蔵されています。
本展覧会ではこの計5体の「埴輪　挂甲の武人」を同時に公開します。
5体を一堂に集めるのは史上初めてです。
このうちの1体はアメリカのシアトル美術館が
昭和37（1962）年に収蔵したもので、
約60年ぶりに日本に帰ってきます。

国宝でわかる！古墳時代

昭和49（1974）年、
「埴輪　挂甲の武人」（東京国立博物館蔵）が
埴輪で初めて国宝に指定されました。
本展にはこの埴輪を含め、国宝18点が集結します。
第1章は古墳から出土した国宝のみで
構成した贅沢な展示です。

国宝

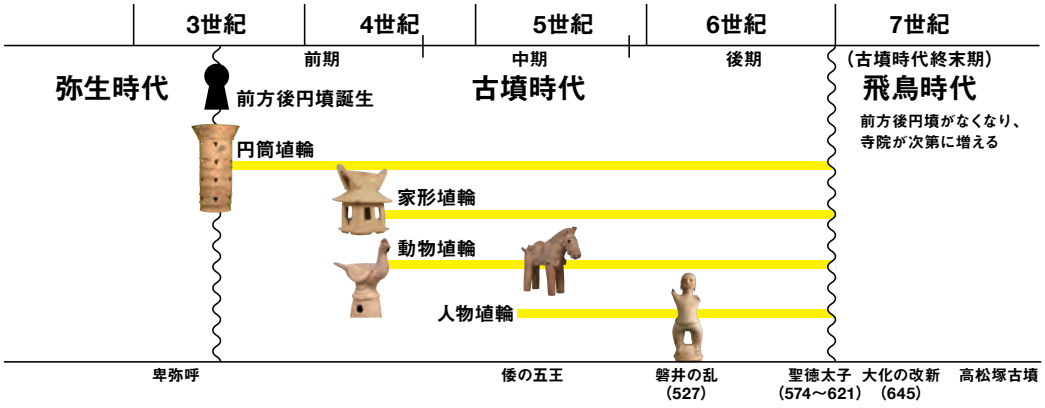
挂甲の武人　国宝指定50周年記念

50

東北から九州まで各地の埴輪が半世紀ぶりに大集合！

東北から九州にいたる約50箇所の所蔵・保管先から作品を集め、
空前の規模で実現した特別展です。
これほどの大規模な埴輪展が東京国立博物館で開かれるのは、
昭和48（1973）年の特別展観「はにわ」以来です。
約50年ぶりに満を持して開催する、究極の埴輪展をお楽しみください。

年表



埴輪の世界

Prologue プロローグ

修理完了後初お披露目！

古墳時代の3世紀から6世紀にかけて埴輪（はにわ）が作られました。日本列島で独自に出現、発達した埴輪は、服や顔、しぐさなどを簡略化し、丸みをもつといった特徴があり、世界的にも珍しい造形として知られています。ここでは東京国立博物館の代表的な所蔵品のひとつである「埴輪 踊る人々」を紹介します。この埴輪は、東京国立博物館が創立150周年を機に、文化財活用センターとクラウドファンディングなどで寄附をつのり、2022年10月から解体修理を行いました。2024年3月末に修理が完了し、本展が修理後初のお披露目となります。

埴輪 踊（おど）る人々（ひとびと）

埼玉県熊谷市 野原古墳出土
古墳時代・6世紀
東京国立博物館蔵

埴輪といえばこれ！と思われる方も多いですが、実は時代が新しく、表現の省略が進んだ姿です。その反面、埴輪がもつ独特な「ゆるさ」を象徴する存在でもあります。王のマツリに際して踊る姿であるとする説のほかに、近年は片手を挙げて馬の手綱（たづな）を曳（ひ）く姿であるとする説も有力です。

トーハクくん
東京国立博物館
公式キャラクター

今城塚古墳（大阪府高槻市）の埴輪群像

保渡田八幡塚古墳（群馬県高崎市）の埴輪群像
撮影：河野正訓

国宝 金象嵌銘大刀

奈良県天理市 東大寺山古墳出土
古墳時代・4世紀
東京国立博物館蔵

出土資料の中では日本列島最古の銘文刀剣で、中国製の鉄刀を改造し、日本列島独自の青銅製の柄頭に付け替えられました。金象嵌で刻まれた24文字の銘文の中に後漢の「中平」の年号（184〜189）がみられます。倭国大乱の時代の対外交流を示す貴重な資料であり、邪馬台国近畿説の証拠として注目されています。

Chapter 1

第1章 王の登場

埴輪は王（権力者）の墓である古墳に立てられ、古墳からは副葬品が出土します。副葬品は、王の役割の変化と連動するように、移り変わります。古墳時代前期（3〜4世紀）の王は司祭者的な役割であったので、宝器を所有し、中期（5世紀）の王は武人的な役割のため、武器・武具を所有しました。後期（6世紀）は官僚的な役割を持つ王に、金色に輝く馬具や装飾付大刀が大王から配布されました。このほか各時期において、中国大陸や朝鮮半島と関係を示す国際色豊かな副葬品も出土します。ここでは国宝のみで古墳時代を概説し、埴輪が作られた時代と背景を振り返ります。

古墳時代の国宝がズラリ！

国宝 金製耳飾

熊本県和水町 江田船山古墳出土
古墳時代・5〜6世紀
東京国立博物館蔵

水滴形および円錐形の飾りの付いた三連のチェーンをぶら下げた金製耳飾りで、一部に銀やガラス製の部品が使われています。揺れ動くたびにダイナミックにきらめき、音を奏でる最先端のアクセサリーでした。朝鮮半島南部にあった古代国家、加耶で製作され、熊本の豪族にもたらされたものでしょう。

国宝 金銅製沓

熊本県和水町 江田船山古墳出土
古墳時代・5〜6世紀
東京国立博物館蔵

金銅板を鋲で留めて作られた全長34cmの沓で、亀甲文で飾られ、各交点には小さな飾りが付けられていたと推定されます。死者のための沓で、底は全面に突起があり、実際に履いて歩くことはできません。朝鮮半島の百済で作られました。沓は耳飾りとともに朝鮮半島から伝来した新しいファッションのひとつで、人物埴輪の装いにも見られます。

これぞ最高峰の埴輪

家形埴輪

大阪府高槻市 今城塚古墳出土
古墳時代・6世紀
大阪・高槻市立今城塚古代歴史館蔵

3つのパーツを組合せてつくられた巨大な家形埴輪で、屋根の上部と床下の高床部分が別づくりになっています。屋根の上には現代の神社建築にも通じる千木と鰹木がのせられており、大王にふさわしい建物であることがわかります。

仁徳天皇陵古墳（大仙陵古墳）の航空写真　提供：堺市

重要文化財 円筒埴輪

奈良県桜井市 メスリ山古墳出土
古墳時代・4世紀
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵

日本最大の埴輪。メスリ山古墳では、後円部中央の竪穴式石室を取り囲むように多数の巨大な円筒埴輪がたてられました。この円筒埴輪はそのうち最大のものです。2mを上回るその高さ、大きさもさることながら、2cmほどしかない薄さにも注目です。

Chapter 2

第2章 大王の埴輪

ヤマト王権を統治していた大王の墓に立てられた埴輪は、大きさや量、技術で他を圧倒しています。天皇の系譜に連なる大王の古墳は、時期によって築造場所が変わります。古墳時代前期は奈良盆地に築造され、中期に入ると大阪平野で作られるようになります。倭の五王の陵としても名高い、大阪府の百舌鳥・古市古墳群は世界文化遺産に登録されています。そして後期には、継体大王の陵とされる今城塚古墳が淀川流域に築造されます。本章では、古墳時代のトップ水準でつくられた埴輪を、その出現から消滅にかけて時期別に見ることで、埴輪の変遷をたどります。

重要文化財 船形埴輪

宮崎県西都市 西都原古墳群出土
古墳時代・5世紀
東京国立博物館蔵

外洋を航海する準構造船を写した埴輪です。船べりには櫂を受けるための軸受けが左右6個ずつ付きます。軸受けの傾斜する方向が船尾、その反対が船首です。船内は仕切られ、当時の船の構造がよくわかります。古墳時代、船は波濤を越えた交流に用いられるだけでなく、死者の魂の乗り物とも考えられていました。

Chapter 3 第3章

埴輪の造形

埴輪が出土した北限は岩手県、南限は鹿児島県です。日本列島の幅広い地域で、埴輪は作られました。それらの埴輪は、当時の地域ごとの習俗の差、技術者の習熟度、また大王との関係性の強弱によって、表現方法に違いが生まれています。その結果、各地域には大王墓の埴輪と遜色ない精巧な埴輪が作られる一方で、地域色あふれる個性的な埴輪も作られました。ここでは各地域の高い水準で作られた埴輪や、独特な造形の埴輪を紹介します。

重要文化財 埴輪 天冠をつけた男子

福島県いわき市 神谷作101号墳出土
古墳時代・6世紀
福島県蔵（磐城高等学校保管）
写真：いわき市教育委員会提供

美豆良を肩まで垂らしたヘアスタイルに、両手を前に捧げ胡坐をかいて座る端正な顔立ちの男性です。三角形の冠のひさしの先端には7つの鈴が上下に揺れています。左腰には大刀と弓を射る時の防具である鞆を下げた盛装のいでたちです。衣服や冠、頬は赤く彩色されており、威儀を正し拝礼する若き王の姿をほうふつとさせます。

馬形埴輪

三重県鈴鹿市 石薬師東古墳群63号墳出土
古墳時代・5世紀
三重県蔵（三重県埋蔵文化財センター保管）

馬は、古墳時代に朝鮮半島から渡来して急速に普及し、農耕や軍事、儀式などに用いられました。馬形埴輪の大半は、数多くの馬具を身に付けた「飾り馬」です。この埴輪も飾り馬を忠実に模していますが、頭部の表現が独特です。被りものか、たてがみを垂らした状態を表したと思われ、全国的に見ても類例のない珍しいものです。

造形美と技術の極み

1

さまざまな素材で作られた埴輪

阿蘇山の凝灰岩で作られた、九州北・中部に分布する人物造形を石人と呼びます。これは甲冑を装着し武装した石人で、顔が傷んでいます。両腕を伸ばし、あたかも死者の眠りを妨げる侵入者を阻止するかのようです。出土した鶴見山古墳は継体大王に対し反乱を起こした筑紫君磐井（つくしのきみいわい）の息子、葛子（くずこ）の墓とも推定されています。

重要文化財　武装石人（ぶそうせきじん）

福岡県八女市 鶴見山古墳出土
古墳時代・6世紀
福岡・八女市蔵（岩戸山歴史文化交流館保管）

埴輪棺（はにわかん）

香川県高松市 本堯寺北1号墳出土
古墳時代・4～5世紀
東京国立博物館蔵

2

棺となった埴輪

埴輪を利用した棺です。棺には通常の円筒埴輪を転用したものと、最初から棺桶のために特別に作られたものがあります。後者には本作品のように円筒埴輪に突帯を多く巡らせて強度をもたせたものや、時代が新しくなると家形のものもあらわれます。

埴輪（はにわ） 乳飲み児（ちのご）を抱（だ）く女子（じょし）

茨城県ひたちなか市 大平古墳群出土
古墳時代・6世紀
茨城・ひたちなか市教育委員会蔵
（ひたちなか市埋蔵文化財調査センター保管）

3

親子の愛

女性の埴輪は多くが巫女や采女（うねめ）であり、古墳や王をめぐるマツリのなかでそれぞれ役割を演じたものと考えられています。いっぽうで埴輪にはマツリの内容とは必ずしも関係しない様々な場面や人々が表現されることがあり、なかには子を抱いたりおぶったりする母親の姿や、親子の動物が表現されたものがあります。

国宝 挂甲の武人とその仲間

Chapter 4
第4章

埴輪で初めて国宝となった「埴輪 挂甲の武人」には、同じ工房で製作された可能性も指摘されるほど、兄弟のようによく似た埴輪が4体あります。そのうちの1体は、現在アメリカのシアトル美術館が所蔵しており、日本ではなかなか見られません。今回、5体の挂甲の武人を史上初めて一堂に集め、展示します。なお、国宝「埴輪 挂甲の武人」は近年修理と調査研究が行われ、『修理調査報告　国宝 埴輪 挂甲の武人』(2024年、東京国立博物館発行)として報告書が刊行されました。ここではその最新の研究成果も紹介します。

HANIWA! Brothers!

国宝「埴輪 挂甲の武人」と、よく似た4体の埴輪です。矢を入れる道具(靫(ゆぎ)や胡簶(ころく))、身に着ける武具など、細部に違いが見られます。いずれも群馬県太田市域の窯で焼かれ、出土した古墳は太田市や伊勢崎市に限定されており、最高の技術で作られた埴輪です。

サムライのルーツ

東京国立博物館を代表する埴輪。頭から足まで完全武装しており、古墳時代の武人の様子を眼前に見せてくれます。考古学的価値のみならず、その造形美から美術的にも高い評価を得ています。

東京国立博物館は、バンク・オブ・アメリカから支援を受け、2017年3月から2019年6月まで、およそ28か月間にわたり解体修理を実施しました。

地元・群馬はオレが守る!

アメリカから里帰り

庇(ひさし)が深い恥ずかしがりや?

最後に誕生した!?末っ子

国宝　埴輪(はにわ) 挂甲(けいこう)の武人(ぶじん)
群馬県太田市飯塚町出土
古墳時代・6世紀
東京国立博物館蔵

重要文化財　埴輪(はにわ) 挂甲(けいこう)の武人(ぶじん)(部分)
群馬県太田市成塚町出土
古墳時代・6世紀
群馬・(公財)相川考古館蔵

埴輪(はにわ) 挂甲(けいこう)の武人(ぶじん)
群馬県太田市出土
古墳時代・6世紀
アメリカ・シアトル美術館蔵

埴輪(はにわ) 挂甲(けいこう)の武人(ぶじん)
群馬県伊勢崎市安堀町出土
古墳時代・6世紀
千葉・国立歴史民俗博物館蔵

重要文化財　埴輪(はにわ) 挂甲(けいこう)の武人(ぶじん)
群馬県太田市世良田町出土
古墳時代・6世紀
奈良・天理大学附属天理参考館蔵

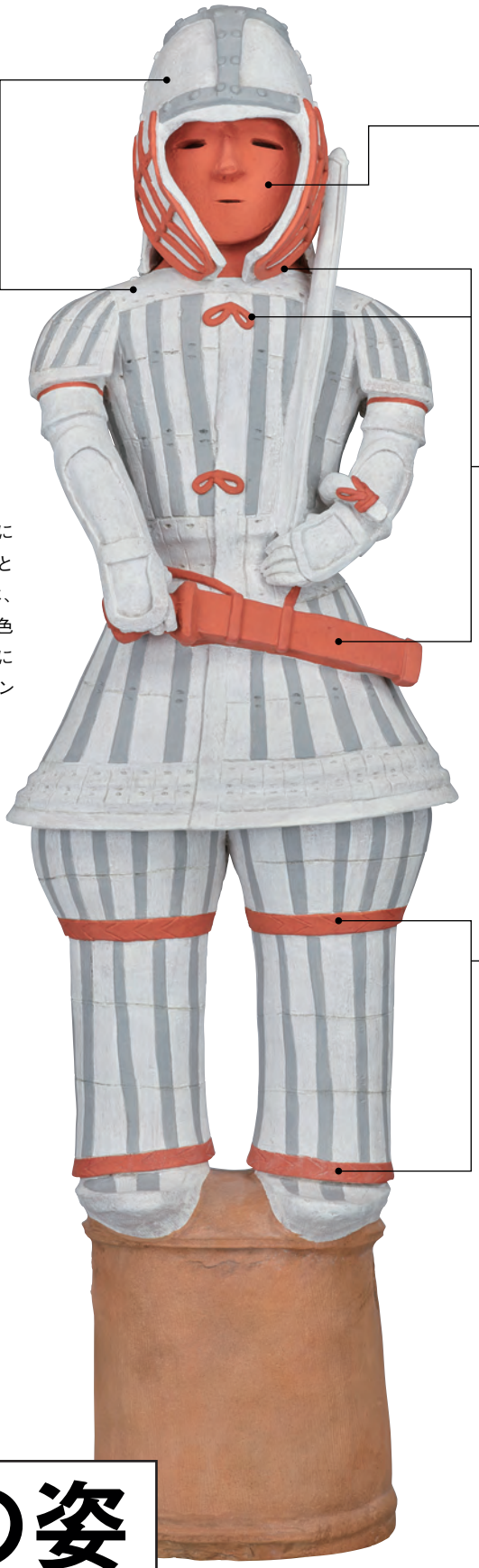
史上初!「埴輪　挂甲の武人」5体勢揃い!

Chapter 4

第4章

国宝 挂甲の武人

国宝「埴輪　挂甲の武人」には、表面に色が塗られていた痕跡が各所に残っています。平成29（2017）年から平成31（2019）年に実施した解体修理に際し、詳細な観察と分析を行いました。その結果、白、赤、灰の3色が全体に塗り分けられていたことがわかりました。このたび実物大で彩色復元を行い、製作当時の姿をご覧いただきます。



① 顔や首には赤色が残っており、全体を赤色で復元しました。

② 甲や冑の錣（首を守る防具）は、白と灰色で塗り分けられていました。

③ 頬当の綴じ紐、甲の合わせ紐、大刀とその吊り紐は赤色で塗られていました。

④ 膝甲と臑当の下端は覆輪という紐で縁取られており、赤色で表現されています。

埴輪 挂甲の武人（彩色復元）

令和5（2023）年
原品：群馬県太田市飯塚町出土
古墳時代・6世紀
東京国立博物館蔵
制作：文化財活用センター

白、赤、灰の3色は、いずれも付近の土中に含まれるなど身近な物質を利用したものと考えられます。全体の下地となる白色には、きめの細かい白い土が使われました。赤色は鉄分を主な成分としており、やはり土中に含まれる物質です。灰色は白い土にマンガンという黒い鉱物を混ぜています。

⑥ 現在まだら状に表面に残る黒色は、埴輪が埋まっている間に土中のマンガンが付着したものです。

⑤ 背中の靫（矢入れ）は3色で塗り分けられています。

今よみがえる古墳時代の姿

物語をつたえる埴輪

Chapter 5

第5章

埴輪劇場の開幕

埴輪は複数の人物や動物などを組み合わせて、埴輪劇場とも呼ぶべき何かしらの物語を表現します。ここではその埴輪群像を場面ごとに紹介します。例えば、古墳のガードマンである盾持人、古墳から邪気を払う相撲の力士など、多様な人物の役割分担を示します。また、魂のよりどころとなる神聖な家形埴輪は、古墳の中心施設に置かれ、複数組み合わせることで王の居館を再現したのではないかと考えられます。このほか動物埴輪も、種類ごとに役割が異なります。この章の動物埴輪は、従来にないダイナミックな見せ方で展示します。

埴輪 力士

神奈川県厚木市 登山1号墳出土
古墳時代・6世紀
神奈川・厚木市教育委員会蔵
（あつぎ郷土博物館保管）

坊主頭で頬は赤く、耳飾りを付けた男性です。まわしをしめており、おそらく力士でしょう。手を上げて四股を踏むポーズなのかもしれません。『日本書紀』によれば、初めて相撲をとったのは古墳時代の豪族である土師氏の祖先で埴輪の考案者でもある野見宿禰だとされています。当時、力士は邪気を払う重要な役割を持っていました。

鶏形埴輪

栃木県真岡市 鶏塚古墳出土
古墳時代・6世紀
東京国立博物館蔵

胸をはり頭と尾をぴんと立て、丸い目が特徴的な鶏で、鶏冠と口ばしの下の肉垂を赤く塗って羽毛を表現します。埴輪では夜明けに鳴く雄鶏が多く見られます。古代では、鶏は邪悪なものが暗躍する闇夜を打ち払い、光をもたらす神聖な動物でした。家形埴輪の近くで出土することが多く、魂を守る役割を担っていたのかもしれません。

鹿形埴輪

静岡県浜松市 辺田平1号墳出土
古墳時代・5世紀
静岡・浜松市市民ミュージアム浜北蔵

後ろを振り返ったポーズをとる、いわゆる「見返りの鹿」です。大きな角を持った牡鹿で、胴部には焼く時に空気を抜く穴があけられています。鹿の埴輪は犬や人物とセットになって狩猟場面を構成し、この古墳からも弓を持つ人物が出土しました。後の世の武士が愛好した鷹狩のように、狩猟は常に権力と結びついていました。

エピローグ Epilogue

日本人と埴輪の再会

古墳時代が終わると埴輪は作られなくなりますが、江戸時代に入ると考古遺物への関心が高まり、埴輪がふたたび注目を浴びるようになります。著名人が愛蔵した埴輪、著名な版画家の斎藤清が描いた埴輪、埴輪の総選挙（群馬HANI－1グランプリ）でNo.1になった埴輪など、芸術家や一般市民など幅広い層で埴輪が愛されています。ここでは近世以降、現代にいたるまで埴輪がどのように捉えられてきたかについて紹介します。

時代を超えて愛される埴輪

武人埴輪模型（ぶじんはにわもけい）

吉田白嶺作
大正元年（1912年）
東京国立博物館蔵

明治天皇陵に埋められたとされる武人埴輪の模型です。江戸時代以降に国学が発達したことで、古い祭儀への関心が高まり、皇室に関係する場面にも古墳の要素が取り入れられることがありました。幕末の孝明天皇陵は円墳になり、明治天皇陵では埴輪が作られたことが知られています。

挂甲の武人 国宝指定50周年記念

特別展 はにわ

Special Exhibition Celebrating the 50th Anniversary of the Designation of the *Warrior in* Keikō *Armor* as a National Treasure

Haniwa: Tomb Sculptures of Japan

2024.10.16（水）—12.8（日）

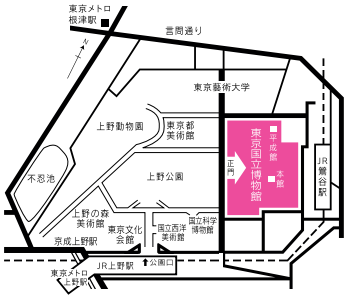
TNM 東京国立博物館 平成館［上野公園］
TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

開館時間：午前9時30分～午後5時 ※入館は閉館30分前まで
休館日：月曜日、ただし11月4日（月）は開館、11月5日（火）は本展のみ開館
主催：東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

特別協賛： BANK OF AMERICA

協賛：TOPPAN　協力：全日本空輸
お問合せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）　展覧会公式サイト：https://haniwa820.exhibit.jp/
公式X：@haniwa820_ten　公式Instagram：@haniwa820_ten

※作品はすべて通期での展示を予定しています。
※展示作品、会期、開館時間、休館日、観覧料、入館方法、展示期間等については、今後の諸事情により変更する場合があります。
最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。
※本展は事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性がございます。



〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館ウェブサイト https://www.tnm.jp/

●JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分●東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、東京メトロ千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

2025年1月21日（火）～5月11日（日）、九州国立博物館でも開催！

報道関係お問合せ

挂甲の武人 国宝指定50周年記念　特別展「はにわ」広報事務局（共同PR内）
〒104-0045　東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階
TEL：03-6264-2382　FAX：0120-653-545　E-mail：haniwa820-pr@kyodo-pr.co.jp